



BeNews

2013.Spring

【特集】

- 1.別府大学・別府大学短期大学部の国際理解教育(1)・・・1-2
- 2.大学・短大「教育研究発展計画2012-2016」の策定と今後の取組・・・3-4

contents

●教育CloseUp

- 国際経営学科の「公認会計士・税理士資格」教育・・・5
- 短大食物栄養科の「食育」活動・・・・・・・・・・・・・・6

●研究者インタビュー

- 浅田 憲彦（食物栄養学科 准教授）・・・・・・・・・・・・7
- 有吉 宏朗（初等教育科 助教）・・・・・・・・・・・・・・8

- 国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- いきいき別大生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- がんばってます留学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 学園を支えていただいた方々・・・・・・・・・・・・・・12
- 後輩への言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 学園News・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14-17
- 新聞掲載記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18



大田黒 翔代「サムシング ブルー」F120 油彩

特集 1 別府大学・別府大学短期大学部の国際理解教育（1）

国際交流の歴史

別府大学は今年度（2012年度）創立62年目、短期大学部は来年度（2013年度）創立60周年を迎えます。この間、本学（大学・短大を総称。以下同様）は教育の基本的な柱の一つとして国際理解教育を掲げ、さまざまな国際交流の取組みを展開してきました。今回の特集では、そのような本学の国際交流について紹介してみたいと思います。

なお、現在、国際理解教育の一環として多くの留学生を受け入れ、日本語や日本文化、あるいは本学の特色ある学科教育を留学生に教授していますが、この留学生受け入れについては、次号で紹介します。

1. 国際交流の歩み

本学の国際交流の濫觴は第2次世界大戦後に遡ります。本学の前身「別府女子専門学校」は戦後間もなく開学しましたが、これには本学創始者佐藤義詮前理事長と親交のあった駐留米軍別府駐在CIC隊長エスポジット氏の協力がありました。その後、同氏がハワイに帰国し、ハワイ大学顧問に就任すると、氏の後援によって1980年から文学部英文学科の同大学における夏季研修が始まり、1983年には同大学との間で本学最初の海外交流協定が締結されました。



ハワイ大学での授業風景

その後、西村駿一前理事長による積極的な国際交流の推進によって、海外に多くの協定校が誕生しました。アメリカに関しては、1987年にカリフォルニア州デアンザに「別府大学国際教育センター」を開設し、翌88年には同州立デアンザ大学と交流協定を締結しました。現在、アメリカには4校の協定校があります。

アジアでは、佐藤前理事長と中国・四川外語学院の黄瀛教授が大学時代の学友であったことから、1984年に中国・重慶市にある同学院と交流協定を締結しました。また、賀川光夫前学長が中国・復旦大学の呉桀教授と親交があったことから、1989年に同大学と交流協定を締結しました。その後、中国に関しては、現在まで13の教育機関（「機関」とは大学・短大・専門学校のほか、高校や協会・団体を含む。以下同様。）と交流協定を締結するに至っています。韓国については、1989年の大邱・信一専門大学（現在、大邱産業大学）との協定を皮切りに、現在まで54の教育機関と交流協定を締結しています。台湾に関して

は、1990年に台北にある中国文化大学と交流協定を締結したのをはじめとし、現在に至るまで12の協定機関を数えています。



1990年の復旦大学での研修（右下の写真右側が呉桀先生）

ヨーロッパでは、英文学科の上田見二名誉教授と大分大学のマーティン・ブレナン教授（後に本学に移籍）との親交が契機となり、1997年にイギリスのウインチェスターにあるキング・アルフレッド大学（現在のウインチェスター大学）と交流協定を締結しました。また、フランス文学の井上富江名誉教授の仲介で、1999年にはフランスのモンペリエにあるポール・ヴァレリー（モンペリエ第3）大学と交流協定を締結しました。昨年（2012年）はロシアのロシア高等経済学院大学と協定を結び、すでに交流を始めています。

2012年度末現在、法人を含め本学が協定を結んでいる海外の教育機関は92機関に及んでいます。次表はその国別・本学の機関別一覧です。

表1 国別交流協定校の数（2013年3月1日現在）

（1）外国の大学、短大等との教育・学術交流協定

国	韓国	米国	台湾	中国	香港	英国	仏国	ニュージーランド	計
数	47	4	10	11	1	1	3	2	79

（2）外国の高校、協会、団体等との学生募集に関する協定

国	韓国	米国	台湾	中国	香港	英国	仏国	ニュージーランド	計
数	9	0	0	1	0	0	0	0	10

（3）外国の協会、団体等との教育交流協定

国	韓国	米国	台湾	中国	香港	英国	仏国	ニュージーランド	計
数	0	0	2	1	0	0	0	0	3
合計	56	4	12	13	1	1	3	2	92

表2 本学の機関別交流協定校の数（2013年3月1日現在）

（1）外国の大学、短大等との教育・学術交流協定

機関	大学	短大	高校	中国	看専	法人
数	53	35	23	11	7	32

（2）外国の高校、協会、団体等との学生募集に関する協定

機関	大学	短大	高校	中国	看専	法人
数	9	9	0	0	0	2

（3）外国の協会、団体等との教育交流協定

機関	大学	短大	高校	中学	看専	法人
数	2	1	0	0	0	2
合計	64	45	23	11	7	36

2. 海外教育機関との交流

このような国際交流の歩みの中で、本学園は1986年に「学校法人佐藤学園海外交流規程」（現在は「学校法人別府大学海外交流規程」）を設け、交流事項を次の通り定めました。

1. 外国大学との友好協定の締結
2. 前号の友好協定に基づく教職員、学生の交流
3. 学園の業務文は学術上の目的による研究調査のための教職員の海外派遣
4. 学生、生徒の海外研修旅行
5. 外国人留学生及び海外子女の教育的受入れ
6. 特色ある教育を確立するため、国際講座の開催
7. 本学において日本文化を研究しようとする外国人の受入れ

本学はこの規程に基づき、これまでさまざまな交流活動を展開してきました。以下、その主たる活動について紹介します。このうち海外教育機関との友好協定の締結については、上述したところです。また、留学生の受け入れについては、次回の特集で紹介することとします。

(1) 学生の交流

国際交流が本格化した1980年代以降、本学は海外の協定校において滞在型・旅行型の海外研修を実施してきました。1980年からハワイ大学、1989年からはデアンザ大学において、英文学科（4大）・英語科（短大）学生による1ヶ月の研修（単位互換）を開始しました。その後、両校における研修は途絶えましたが、この企画は1997年以降、イギリスのキングアルフレッド大学（現ウインチェスター大学）における1年間の研修に受け継がれました。また、フランスのモンペリエ大学、台湾の中国文化大学、韓国の韓国外国語大学などとは、不定期ではありますが、1年ないし半年の交換留学が行われています。

本学の各学科では毎年1週間から10日程度の海外研修旅行を実施しています。この研修旅行の企画に当たっては、海外の協定校を訪問し、授業を受講したり、学生同士が交流するといった内容を組み込んでいます。

協定校の中でも、特に韓国の大邱科学大学とは学生間の交流を積極的に展開しています。当校とはインターネットを使った遠隔授業を行ったり、インターンシップに関する覚書（グローバル現場実習プログラム）を交わし、当校の学生を2ヶ月間にわたり受け入れています。また、当校が毎年開催する「TSUキャン」には、学生が自主的に参加しています。



大邱科学大学との遠隔授業の様子

(2) 国際セミナーの開催

ハワイ大学における研修の見返りとして、本学は1986年から「別府大学国際セミナー」を開催しました。当初このセミナーは、本学教員がハワイ大学に出向して授業を行い、その翌年に同大

学の学生が本学で実地研修を行うという枠組みで実施されましたが、国際的な経済状況の変化が原因で、1990年に休止のやむなきに至りました。しかし、その後、台湾・韓国などアジアの協定校から強い要望があり、1993年にセミナーを再開、夏季と冬季の2回開催することとし、現在に至っています。

現在、セミナーは2週間・3週間のコースを設け実施しています。セミナーでは日本語および華道・茶道といった日本の伝統文化を学ぶほか、大分県内外の観光も行います。宿舎は別府・鉄輪温泉の旅館を借り切り、温泉文化も体験してもらう企画にしています。セミナーには韓国・台湾・中国を中心にアジアの各国から、毎年年間250名ほどの学生・高校生が参加しており、一昨年(2011年)からはロシアの学生も加わりました。



国際セミナー閉講式の様子
(豊田学長から修了証書を受けとるロシアのエカテリーナ先生)

(3) 教員の交流

教員間の交流は、協定校への出向や海外における調査・研究などを通して行っています。特にフランスのモンペリエ大学とは毎年1ヶ月間、相互に教員を派遣し、それぞれの大学で授業を行っています。また、国際シンポジウム等の開催に当たっては、積極的に協定校の教員を招聘しています。

(4) 海外の交流拠点

国際交流を推進する過程で海外に幾つかの交流拠点が生まれました。上述のデアンザ「別府大学国際教育センター」はその嚆矢ですが、1995年には韓国の「釜山留学院」内に別府大学韓国事務所が設けられました。台湾にも後援会組織がつくられ、現在も隔年で「別府大学台湾同学会」が開催されています。また、昨年（2012年）本学の同窓会が韓国に支部を結成し、同窓会活動の海外展開を進めています。

3. おわりに

本学はこのような国際交流を通して、国際感覚豊かな人材の育成に努めてきました。その成果として、これまで海外の職場で活躍する日本人卒業生や、日本と海外を結ぶ職種に携わる外国人卒業生を、少なからず輩出してきました。平成21年に本学文学部を改組して国際言語・文化学科を開設し、その中に国際文化コースを設けたことや、同年に国際経営学部（国際経営学科）を設置し、その中に国際経営コースを設けたことは、本学が推進してきた国際理解教育のひとつのピークを示す出来事といえます。そして、それはまた本学が更なる国際化に向けて歩み始めたことを示す証でもあるわけです。

特集2 大学・短大『教育研究発展計画 2012-2016』の策定と今後の取組

別府大学と別府大学短期大学部は、平成23年度末に『教育研究発展計画2012-2016（別府大学 未来へのアプローチ）』を策定しました。

変化の激しい不透明な時代に、大学が学生や地域の信頼を得て安定的に発展していくためには、学園の全教職員が共通の目標のもと一致協力し、理想の大学を創造していく覚悟で改革に取り組む必要があります。私たちは、このような認識に立って、『教育研究発展計画』を策定し、大学の改革目標を明確に立て、それを実現するための具体策を定めました。

同計画の実施期間は平成24年度から平成28年度の5年間で、以下に、計画策定のプロセス、計画の概要、計画の実行体制などを簡単にご紹介します。

1. 『教育研究発展計画』の策定プロセス

大学全体の計画が実効性を持つためには、教職員各自が計画内容にシンパシーを持ち、自ら主体的に実行に参加する計画であると受け止めていることが望めます。このため、計画策定のプロセスには、できるだけ多くの教職員が関与できるように心掛けました。

(1) プロジェクトチームによる原案の作成

平成22年11月、大学・短大の各教授会において中期計画を策定すること、及びそのためのプロジェクトチーム（PT）を大学・短大に設置することが決定されました。これを受けて、大学企画運営会議及び短大学科長会議のもとにそれぞれPTが設置され、PTのメンバーとして大学11名、短大13名の若手・中堅教職員が選任されました。これは、ボトムアップ形式で現場の実践的な意見や課題を引き出すとともに、若手・中堅職員が改革を推進する主体となることを期待したからです。PT統括には、大学は田代為寛教授、短大は後藤善友准教授が指名され、事務局は企画室が当たりました。

PT会議は平成22年12月からスタート。初回は大学・短大別に会議が開かれましたが、両校には共通する課題が多く、バラバラな計画となることは好ましくないという判断から、2回目以降は大学・短大合同会議として開催されました。また、PT会議の準備や調整のため、幹事会が置かれました。

以降、平成22年12月から翌23年10月までの間に数多くのPT合同会議が開催され、また幹事会もほぼ毎週開催され、計画案の作成が進められました。その間に、大学のミッション・ビジョンを検討するワークショップなどが開催され、活発な議論が繰り広げられました。

(2) 企画運営会議、学科長会議における検討

上述の検討を進めつつ、PT合同会議は大学企画運営会議、短大学科長会議に対して、第1次中間報告（平成23年5月）、

第2次中間報告（同年7月）を提出し、両会議の意見を踏まえた修正を加え、10月に最終報告を提出しました。さらに両会議で検討が加えられた後、平成23年10月に『教育研究発展計画』の原案が教授会で承認されました。その後、各種委員会、センター等の意見聴取が行われ、計画の完成度が高められました。

(3) 24年度計画、法人中期計画の作成

上述のプロセスを経て、『教育研究発展計画』は完成し、最終的に24年2月の教授会で承認されました。また23年度末以降は、並行して平成24年度計画が作成されました。

『教育研究発展計画』と『法人中期計画』



以上のように、『教育研究発展計画』は1年以上の期間をかけて大学・短大の全学的な議論のもとに策定され、平成24年4月の合同教授会をもって実行に移されています。なお、この『教育研究発展計画』は、学園全体の5ヶ年計画『学校法人別府大学中期計画（24年度～28年度）』に反映され、その中核をなしています。

2. 『教育研究発展計画』の概要

『教育研究発展計画』は、大きく分けて4つの章から構成されています。以下に、各章の内容を紹介します。

第1章 建学の精神

第1章で、まず建学の精神「真理はわれらを自由にする」の意味を再確認しています。また、建学の精神を実践的な教育理念として今以上に生かすため、内容を咀嚼し「学問研究を通して真理を探究し、自分でものを考え、事実を正しく認識しようと努めつつ生きることによって、自立した人間として自由に社会と関わることができるようになること」と分かりやすく言い替えを試みています。

第2章 別府大学のミッション（使命）

建学の精神と現在の社会状況に照らし、別府大学に課せられた社会的使命を、「教育」「研究」「地域貢献」の3つであると再確認しています。

第3章 別府大学のビジョン（目標・大学像）

別府大学に化せられたミッション（使命）を果たすため、以下の5つのビジョン（目標・大学像）を掲げ、その実現をめざすことを宣言しています。

《5つのビジョン（目標・大学像）》

- ①心のかような大学
- ②すべての学生が成長できる大学
- ③研究と創作に挑む創造的な大学
- ④地域に学び、地域に貢献する大学
- ⑤自己改革を続ける大学

第4章 10の重点目標

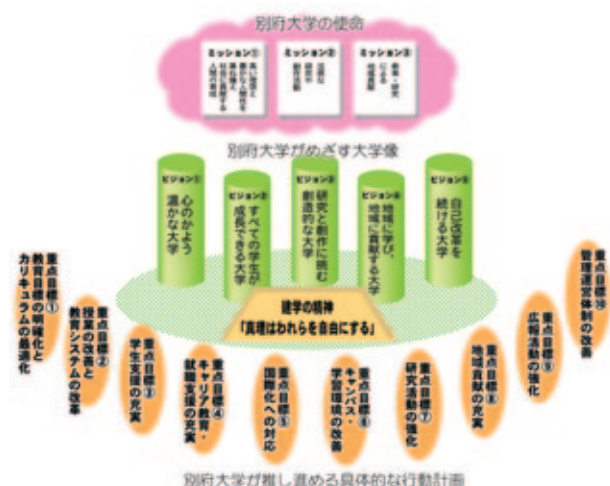
5つのビジョン（目標・大学像）の実現策として10の重点目標を掲げるとともに、10の重点目標を中項目及び小項目に細分化し、大学が取り組むべき改革を具体化しています。

《10の重点目標》

- 重点目標1 教育目標の明確化とカリキュラムの最適化
- 重点目標2 授業の改善と教育システムの改革
- 重点目標3 学生支援の充実
- 重点目標4 キャリア教育、就職支援の充実
- 重点目標5 国際化への対応
- 重点目標6 キャンパス・学習環境の改善
- 重点目標7 研究活動の強化
- 重点目標8 地域貢献の充実
- 重点目標9 広報活動の強化
- 重点目標10 管理運営体制の改善

以上の全体像は次の図-1で示すことが出来ます

図-1 『教育研究発展計画』の全体像



3. 『教育研究発展計画』の実行体制・実行工程

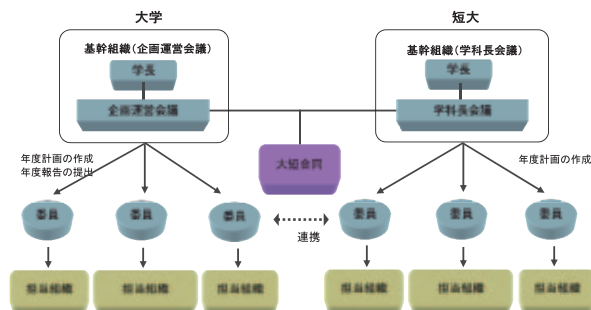
『教育研究発展計画』を実行するための体制や想定する実行工程は次のとおりです。

(1) 実行体制（図-2）

- ①大学の企画運営会議、短大の学科長会議がそれぞれ計画の基幹組織となる。
- ②計画の小項目ごとに担当組織（各種委員会、センター・

研究所・附属施設等、企画運営会議に置かれた各WG）を置き、各小項目の実行主体となる。

図-2 『教育研究発展計画』の実行体制

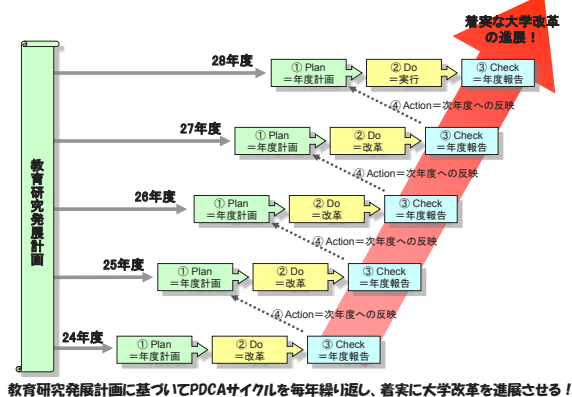


学長のリーダーシップのもと、企画運営、学科長会議が基幹組織となり、計画を牽引する！

(2) PDCAサイクルによる実行工程（図-3）

- ① 担当組織は、基幹組織の指示のもと、『教育研究発展計画2012-2016』に基づいて、翌年度の「年度計画」を作成するとともに、年度計画を実行し、年度末には「年度報告」を作成する。
- ② 基幹組織は、担当組織の「年度報告」に基づき「大学年度報告」をとりまとめ、大学全体の自己評価を行う。
- ③ 担当組織は、②の自己評価を踏まえて、翌年度の「年度計画」を作成する。
- ④ 毎年、①から③のサイクルを繰り返すことによって、PDCAサイクルを稼働し、『教育研究発展計画』を着実に実行する。

図-3 PDCAサイクルによる改革の進展



教育研究発展計画に基づいてPDCAサイクルを毎年繰り返し、着実に大学改革を進展させる！

4. おわりに

以上のように、別府大学・別府大学短期大学部は、めざすべき将来像に向かって大学改革を進めるべく『教育研究発展計画』を策定しました。計画は平成24年4月から始まっています。計画の実現に向けて全教職員で努力してまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

国際経営学科の「公認会計士・税理士資格」教育

国際経営学部国際経営学科は平成21年度に開設し、国際経営、会計・税理士、観光経営の3コースを擁しています。中でも会計・税理士コースは国内でも珍しい、公認会計士と税理士の資格取得を目指す学部教育を行っており、本学部・学科の特色をなすコースです。以下、本コースの教育の特色と学生の資格試験への取組みについて紹介します。

公認会計士・税理士資格教育

(1) 習熟度別クラス編成

国際経営学部会計・税理士コースでは、簿記の基礎から応用までを段階的に学習できるシステムを構築し、日商簿記3級レベルから2級、1級と専任教員が各学生の習熟度に合わせたクラス編成を行い、学生のキャリアアップを積極的に支援しています。



(2) 受験対策講義

本コースの会計学の授業では、一般的な学習を目的とした講義以外に、公認会計士・税理士受験に対応した講義も別途実施しています。また、これらの国家試験に対応した特別クラスも編成し、専任教員が指導に当たっています。

(3) 専門学校との連携

公認会計士や税理士受験対策として、大学の講義に加えて、希望者に専門学校の受験対策講座を受講させ、大学が受講料の一部を助成しています。さらに、大手専門学校と積極的に連携し、簿記特別講座や、本科が協賛する学生簿記大会も実施しています。



大手専門学校 学生簿記大会

学生の資格試験への取組み

現在、本コースでは3名の学生が公認会計士試験、税理士試験にチャレンジを始め、他の複数の学生も将来の受験に向けて準備を進めています。今年公認会計士試験に挑戦する4年生の田代啓介君は、大学1年から簿記の勉強を始め、現在までに日商簿記3、2級と順調に資格を取得し、平成24年11月に実施された第132回日商簿記検定1級に見事合格しました。田代君は、「別府大学に国際経営学部が新設されると知り、進学を決定した。本学部で簿記会計を実際に学んでいく中で、公認会計士を目指そうと考え、これからは頑張っていきたい」と語り、公認会計士試験の短答式の合格が期待されます。

また、3年生の阿部界人君（明豊高校卒）と2年生の松村昂君（大分商業高校卒）は今年の税理士試験の受験を目指しています。両名とも1年次から日商簿記3級、2級と順次合格し、現在、税理士試験の必修科目である簿記論および財務諸表論の試験向け、勉強に励んでいます。阿部君は「別府大学の学習環境の良さと先生方が親身になって学習等々のサポートして下さることが、税理士を目指す気持ちをより高めてくれた」、松村君は「人と話すことが好き。税理士になったら、会社の社長や社員などいろいろな人と関わることができ、自分の成長にもつながる」と語っています。両君については、在学中に税理士試験の科目別の合格が期待されます。



税理士試験を目指す阿部君(右端)と松村君(左端)
中央は指導に当たる高木准教授

平成25年度には、本コースに国税庁出身で国際税務を専門とする専任教員が加わり、教育体制の一層の強化が図られることとなります。近い将来、国際経営学部国際経営学科で学んだ会計プロフェッションの誕生が期待されます。

短大食物栄養科の「食育」活動

近年、食生活の乱れや食の安全等、食に関わる課題が提起される中、平成17年に「食育基本法」が制定されました。今後、生活習慣病の予防対策やライフステージにあわせた栄養管理を行うために、「食育」に関わる栄養士の役割はますます重要となると思われます。このような状況のもと、本科では社会のさまざまな現場でリーダーとして活躍し、地域の方々に信頼される栄養士の育成を目標として、学生の教育に取り組んでまいりました。

現在、本科で取り組んでいる「食育」活動としては、①健康展、②子育て支援の取組み、③「育ドル娘」出前食育講座、④障がい児者の料理教室、⑤災害時の食事作り、⑥地産食品や食育教材の開発などがあります。以下、それらの取組みについて紹介します。

健康展

健康展は、大分県民の健康増進の支援を目的にして平成22年から開催しており、減塩の取組み等を紹介しています。健康展を行うにあたり、学生には講義や実習の中で減塩のための調理方法を習得させ、掲示するためのポスターやリーフレットを作成させます。一般の参加者に栄養教育を実践させながら実施することで、栄養士としてのスキルアップやカウンセリングの技術の習得につながっています。



健康展の食事相談の様子

子育て支援の取組み

子育て支援の取組みとしては、「親と子の料理教室」のほかに、育児を行う男性やこれから育児に参加する男性を対象とした料理教室（男子キッチンクラブ）を開催しています。この活動を通して、学生は子育て社会の現状を把握し、ライフステージに合わせた支援の方法を幅広く学ぶことができます。



男子キッチンクラブの様子

「育ドル娘」出前食育講座

自主研究会に所属する学生は、授業以外の時間を活用して積極的に食育に取り組んでいます。中でも特色ある活動の一つに「育ドル娘」出前食育講座があります。これは「歌とダンスで食育を」をキャッチフレーズに、食中毒予防や食事マナーと食生活の改善について紙芝居や歌を制作し、保育園や地域の催しなどで食育活動を行うものです。この活動を通して、学生は授業で学んだ知識を活かし、オリジナルの教材を作成し、子どもに分かりやすく表現する力を身につけることができます。



育ドル娘の食育講座の様子

障がい児・者の料理教室

これから力を入れなければいけないのが、障がい者に対する食育の取組みです。現在、年に数回、障がい者を対象とした料理教室を開催していますが、調理実習以外にも障がい児・者への料理絵本を作成するなど、新たな取組みにも挑戦しています。

災害時の食事作り

「3.11東日本大震災」以降、災害に対する社会的関心が高まっています。本科では、大分県内の各地域で、水の濾過方法や炊飯ビニール袋を使った調理法など、災害時の食事作りの講習など



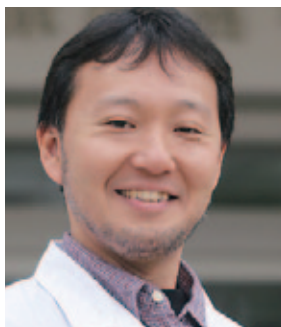
災害時の食事講習会の様子

を行っています。このような活動に学生を参加させることによって、学生が災害時にリーダーシップがとれるよう学習させています。

地産食品や食育教材の開発

このような食育活動を通して、地元の食材を用いた食品やメニューを開発したり、減塩をコンセプトにした「父の日・母の日弁当」なども制作し、県下に広く普及させるなどの取組みも行っています。そのような開発成果の中には、商品として好評を博してるものもあります。

本科では、今後ともこのように社会と関わる実践的な「食の教育」を通して、食を支える人材としての責任感を持ち、どのような場合にも対応できる応用力を備えた学生を育てていきたいと思っています。



食物栄養科学部の創設2年目から活躍されている浅田先生。管理栄養士の養成に日夜奮闘されています。「教育には献身的な気持ちが大切!」という言葉からは、ひとりひとりの学生の成長を願う優しさと熱い思いが感じられました。

分かりやすく楽しいを目標に、 年々授業の質を高めていきたい

一自身が管理栄養士をめざされた理由

マンガの「クッキングパパ」と「ブラックジャック」の影響です(笑)。冗談に聞こえますが、半分は本当の話です。もう少し真面目に言えば、食べたり料理したりすることが好きだった自分の興味関心と医療関係の仕事がしたいという希望との接点にある職業として管理栄養士をめざした、ということになるでしょうか。

一管理栄養士は医と食の接点

そうです。医食同源という言葉があるように、人が健康に生きるためには、日々の食事を大切にすることがあります。管理栄養士は病院で患者の食事療法や栄養相談に携わりますし、食を通して人々の健康を守るのが仕事ですから、医療と本質的に深い関わりがあります。

一管理栄養士は女性の資格のイメージがあります

確かに女性が多い。大学では同期50人のうち男性は6人でした。別大も女子学生が多い。でも、管理栄養士に性別は関係ありません。男性が少ないからこそ貴重な戦力にもなり得る。男子にも是非チャレンジして欲しいですね。

一大学院卒業後、製薬会社に就職されています

大阪にある外資系製薬会社で経腸栄養剤の営業をしていました。お客様は主に病院です。栄養学の専門家として薬剤の説明をして廻るのですが、営業先ではいろいろな対応を受けます。自分の視野を広げる貴重な2年間だったと思います。

一その後、大学に転職された

大学時代の恩師の紹介で愛知県の短大に勤めました。その後同じ恩師から、別府大学に食物栄養科学部が新設されるのでチャレンジしてみないかと声をかけていただきました。当時は学部の新設期で、国試対策や学外実習など教育のシステムづくりに参加できて勉強になりましたね。

一授業で心掛けていることは

楽しく、分かりやすく教えることです。管理栄養士には、栄養学の難しい内容を分かりやすく噛み砕いて説明する能力が必要となります。学生にその能力を求める以上、自分自身も分かりやすく授業をする責任があります。授業の善し悪しは直接学生に聞き、同じ質問が複数あれば、学生が理解しやすいように修正していきます。それを繰り返して、年々授業の質を向上させていきたい。あとは学生のことを優先して行動することでしょうか。

一学生のことを優先する

医療も、福祉も、教育もすべて「自己犠牲を伴う」という言いすぎかもしれませんが、「献身的な気持ち」が大切な分野だと思っています。できるかぎり学生に寄り添って行動していく。努めてそうしているということではなくて、学生のことが自然と気になる。たぶんそういう性格なのでしょう(笑)。国家試験のときは福岡まで泊まり込みでついて行きますし、研究室は出入り自由で、勉強している学生が常に2、3人はいます。学生と

のつきあいが楽しいからやっているのですが。

一学生と地域活動も活発にされていますね

附属幼稚園の子どもたちが育てたサツマイモと一緒にロールケーキを作ったり、味噌を造って一緒に団子汁パーティーを開いたり、学生の食育部隊「ヘルシンジャー」を編成して保育園を指導して回ったり、いろいろなことをやっています。大学外のいろいろな体験が、学生の成長につながることを期待しています。次は食育のアニメや絵本をつくろうと密かに計画しています。

一現在の研究テーマは

シイタケの成分であるエリタデニンが血中コレステロールの低下に及ぼす影響について生理学的に分析しています。あと、卒論指導では流行りの?塩麹の効果について物性などの分析を行っています。基本的に学生の卒論指導に関連させて研究テーマを設定しています。

一最初に料理が好きとお聞きしました

昔から料理番組と台所仕事の好きない子だった、とよく祖母に褒められていました(笑)。いまも学生を家に呼んでバーベキューをしたり、お酒のおつまみを考案したりして、楽しんでいます。人が喜んでくれるのが料理のいいところですね。

一最後に別府大学の良さを教えてください

アットホームで一人ひとりの顔が見えるところです。先生方も優しい方が多いし、派閥や対立のようなものもなく、人間関係が良好です。学生の意見も通りやすい雰囲気があります。伸び伸びとした中で、親身な指導を受けられる。本気で勉強するには最良の環境だと思います。

浅田 憲彦 先生 プロフィール

- 別府大学食物栄養科学部食物栄養学科准教授
- 専門は臨床栄養学、栄養教育論
- 川崎医療福祉大学医療技術学部臨床栄養学科卒業、同大学院医療技術学研究科臨床栄養学修了。修士(臨床栄養学)。
- ダイナボット(株)、愛知江南短期大学助手を経て2003年に本学へ赴任。
- 趣味はダイビング(インストラクター資格有り)、ドラム演奏、マジック、アウトドア、料理。ドラムは小4から始め、大学時代に2つのバンドを掛け持ちした腕前。
- 1男2女の父親。家族でキャンプに行くのが楽しみだが、なかなか時間がとれない悩みも。





第46回昭和会展東京海上日動賞を受賞されるなど画家としての活躍がめざましい有吉先生。将来を嘱望される芸術家です。先生の言葉からは、ものの本質を見つめようとする芸術家の真っ直ぐな視線が感じられました。

絵の巧拙は小さなこと。大切なのは、本気で楽しんで描くことです。

－先生は県外のご出身ですね

父の仕事の関係で中学校まで沖縄で育ちました。高校からは両親の実家のある神奈川に戻って、日本工業大学附属の東京工業高校に通いました。

－もともととは技術系の志望だったのですか

技術というより、ものづくりに関心がありました。絵に限らず何かをつくるということが好きだったんです。美術も工業も「ものをつくる」という点で違いはありません。

－高校ではどのように絵の勉強を

高校1年のときの担任が、熱心に美術部への入部を勧めてくれました。子どもの頃から絵が好きでし、勧められるままに入部したのですが、1学年20クラスの高校で部員は自分を入れてたったの2人。まさに廃部寸前でした（笑）。顧問も、最初に油絵の扱い方を教えた後は、自分の好きなものを描いてこいという姿勢で、いわば放任主義でした。でも、私にはそれがよかったのかもしれない。自由な環境で絵を描き続け、絵を描くことが好きなことが再確認できましたし、描くことの孤独や不安、喜びも早い段階で体験できました。その頃はよく沖縄の風景を描いていました。

－画家を志したのは

はっきりと心に決めたのは高校3年の1学期頃です。担任に工大に進みたいかと聞かれ、イエスと答えられなかった。高校で電気を専門にしていたのですが、電気系は数字を扱うことが主で、ものづくりに関わっているという実感が乏しかった。そのまま続けていく魅力を感じなかったのです。機械系や建築系なら工大に進んでいたかもしれません。

－それから美大受験の勉強をされた

美大受験専門の予備校にも通いました。そこには芸術系高校の生徒もいました。彼らは石膏デッサンなど基礎をしっかりやっているので、受験という面では実力の差が歴然としている。自分自身は浪人覚悟でいたのですが、親は認めてくれない。そのようなときに、美術部の顧問が別大を勧めてくれました。

－別府大学はいかがでしたか

最初、ある種のカルチャーショックがありました（笑）。それまで男子校で気兼ねなく描いていたのが、いきなり女子大生に囲まれてしまった。朝から晩まで同じアトリエで過ごしますから、慣れるのに時間がかかりました。

－美術教育の面ではどうでしたか

東京の大学は現代芸術への志向が強いのですが、別大の先生方は新しいものに流されるようなところがなく、地に足がついた感じがします。そのことが自分にはよかった。大学時代は、江藤明先生や檜垣正喜先生、松本篤先生、篠崎悠美子先生に憧れて、先生方に近づきたいという試行錯誤を重ねました。

－大学院では写実画を追求された

それまでも写実的な絵を描く傾向がありましたが、松本先生にアントニオ・ロペス・ガルシアを教えていただいたことが本格的に写実画に向かうきっかけになりました。進学した大学院は写実画を志す学生の梁山泊のようなところで、本当に絵のうまい人がたくさんいました。でも、写実的な絵を描くだけでは表現者としての幅は生まれない。自分にとっては、別大で先生方の画風に近づきたいと苦闘していた経験が、画家としての大きな財産になっています。

－短大での美術教育はいかがですか

短大では、保育者養成の「造形表現」などを担当しています。学生には、子どもたちにものをつくることの楽しさを伝えられる保育者になって欲しいと思っています。そのため授業では、学生自身がものをつくることの楽しさを体験することを重視しています。また、保育現場では、紙、ダンボール、竹、粘土などの素材が多く使われますから、その素材に触れておくこと、素材に合った楽しみ方を知っておくことを大切にしています。

－なかには絵の下手な学生もいると思いますが

絵の巧拙など小さなことです。大切なのは、本気で楽しく描くこと。たとえ下手でも本気で描くこと。いい加減な気持ちで描いた絵は、たとえうまくても魅力はありません。子どもたちと一緒に本気でものをつくるのが楽しめれば大丈夫です。

有吉 宏朗 先生 プロフィール

- 別府大学短期大学部初等教育科助教
- 別府大学文学部芸術文化学科卒。広島市立大学大学院芸術研究科修了。修士（芸術）。
- 大学院修了後、別府大学の研究生、大学及び短大の非常勤講師を経て現職。
- 若手画家の登竜門として著名な昭和会展にて東京海上日動賞のほか、春陽展にて春陽会賞、中川一政賞などを数々受賞。
- 沖縄で生まれ、中学までを過ごす。幼稚園から中学まで水泳をやっていたので、水泳は得意。高校は神奈川県の実家から、東京にある高校に通う。



国際交流

韓国・龍仁大学校と交流協定締結

本学園は2012年11月8日に韓国の龍仁大学校と包括的な交流協定及び大学間の交流覚書を交わしました。龍仁大学校は京畿道龍仁市に所在する4年制大学で、1953年に設立されました。現在、武道学部・体育科学部・文化芸術学部ほかの6学部を擁し、7,000名の学生が在籍しています。当大学は創立当初から国家級のスポーツ選手の養成を主眼とし、オリンピックでは毎回メダリストを輩出しています。先のロンドンオリンピックでは、金2個を含む5個のメダルを獲得しました。

調印式には、龍仁大学校の金正幸総長ご夫妻が来学し、本学の日高理事長と協定書をかわしました。金総長は1967年のユニバーシアード大会で銀メダルに輝いた柔道選手で、現在、韓国体育協会の副会長、大韓柔道会の会長など、韓国スポーツ界の要職を兼務しています。

本学は国内でも数少ないマンガ・アニメーション、文化財の専門分野を擁しており、今後、龍仁大学校とは当該分野の交流が期待されます。今年早くも、冬期の国際セミナーに当校から2名の学生が参加し、来年度は数名の短期留学生の来学が予定されています。



調印式の様子(前列中央左が金総長、右が日高理事長)

韓国・利賢高等学校と交流協定締結

本学は2012年8月27日に韓国の利賢高等学校と包括的な交流協定及び大学・短大の指定校推薦に関する覚書を交わしました。利賢高等学校はソウル近郊の利川市に所在する新設（2010年開設）の公立普通科高校で、女子生徒が三分の二を占めています。昨年（2012年）5月に豊田寛三学長、友永 植文学部長、孫在奉教授が当校を訪問・視察し、この度、協定締結の運びとなりました。

協定書・覚書の調印は、日高理事長・豊田学長の代理として友永文学部長と孫教授が利賢高校に赴き、当校の李一華校長との間で行いました。今後は当校からの進学や附属の明豊高校との交流が大いに期待されます。今年早速、冬期の国際セミナーに当校の教頭辛先生が引率して生徒7名が参加し、また明豊高校との交流も行われました。



2012年5月の同校訪問



調印式の様子(右が李一華校長、左が友永学部長)

タイの留学生が“孤軍奮闘”

今年度（2012年度）4月、本学では始めてタイの留学生が入学（本学大学院文学研究科日本語・日本文学専攻博士課程後期）しました。留学生はチャンタラチャムノン・セックサンさんで、タイのラチャモンコン・ラタナコシン大学教養学部日本語科の先生です。

セックサンさんは大学院ではタイ語と日本語の比較研究に取り組んでいます。研究の傍ら積極的に日本社会に溶け込むことにも努めています。昨年（2012年）10月には、別府市少年自然の家「おじか」で開催された児童・生徒との国際交流の催し（おじかキッズクラブ）に参加し、子どもたちとどんぐりゴマや竹鉄砲といった日本の伝統的な玩具を作ったり、日本野菜を使った料理にも挑戦しました。

来年度は、セックサンさんの教え子が本学の別科日本語課程に入学するとのことです。今後ともセックサンさんには本学とタイを結ぶ懸け橋の役割を果たしていただくよう期待したいと思います。



中央がセックサンさん

中国・韓国大学関係者の本学来訪

昨年（2012年）6月6日に中国・南海東軟情報技術職業学院の楊利学院長と国際交流副部長の崔敬研教授が来学し、今後の交流の可能性について協議しました。当校は中国の広東省佛山市に所在する私立短期大学で、IT技術関連の5学部を擁しています。通訳を兼ねて来学した崔敬研教授は本学大学院（文学研究科日本語・日本文学専攻）の卒業生です。今後、本学の国際言語・文化学科の日本語・日本文学及びマンガ・アニメーション、デザイン等コースとの交流が期待されます。

また、今年（2013年）1月8日には韓国・慶雲大学校の金香子総長ほか11名の教職員の皆さんが来学し、研修を行いました。当校は韓国・大邱市に所在する私立大学で、7,000人の学生を擁しています。本学とは2005年に交流協定を締結し、相互交流を行っています。また、当校系列の大邱科学大学とは「TSUキャンパス」への参加や「国際インターンシップ」の受入など、相互に密接な交流を展開しています。



本学の田代為寛教授（右）がマンガの著書を楊利学院長（左）に贈呈



慶雲大学校の訪問団(前列中央右が金総長、左が日高理事長)

ハンドボール部の活動(別府大学スポーツ振興会)

史学・文化財学科3年
主将 村田 俊幸

ハンドボール部は別府大学スポーツ振興会に所属し、現在、1年生6名・2年生5名・3年生3名で活動しています。

ハンドボールという競技は、「空中の格闘技」といわれるほど相手との接触が多く、激しいスポーツです。しかし、相手との一対一でのかけひきやパス回し、相手をかわしてのジャンプシュートなど、とてもスピード感のある魅力的なスポーツです。

最近の活動としては、2013年2月に大分県ハンドボール協会主催の県リーグに出場しました。結果は余り残すことはできませんでしたが、チーム全体でさらなる目標ができ、意欲的に活動を行っています。

サークル内は初心者主体での活動になっていますが、先輩からハンドボールのことを丁寧に教えていただき楽しく日々練習しています。

来年度に向けて県リーグでの反省からチーム力アップを目標に、他の大学と合同の練習をしつつ、夏の大会を目指してこれからも頑張っていく予定です。



ハンドボールの練習風景

ギター愛好会の活動(別府大学文化会)

史学・文化財学科2年
部長 上田 史華

ギター愛好会は、別府大学文化会に所属し、現在、1年生7名、2年生5名、3年生8名で活動しています。活動は月・水・金の週3回行っています。

部員はアコースティックギターを使って自分の好きな音楽を弾き語りして楽しんでいます。さつき祭、石垣祭、卒業ライブなどに年3回ライブを行っており、機材を入れていつもとは違った弾き語りを披露しています。また、部員だけでのライブをして技術を高めています。

活動終わりには、みんなでご飯を食べに行くなどして部内の親睦を深めています。

昨年(2012年度)は、器楽部やFRCとの合同ライブに初めて参加して、とてもよい経験になりました。この経験を活かし、今後はライブを増やすなど新たな取り組みに挑みたいと思います。



ギター愛好会の練習風景

献血活動にボランティア参加

史学・文化財学科3年 本田 寛
(大分県学生献血推進協議会 副会長)

大分県学生献血推進協議会は県下の大学生が集まり、主として若年層にたいして献血推進の呼びかけを行っています。具体的な活動としてはパークプレイス、イオン、ゆめタウンなどでの街頭啓発、学内献血における呼びかけ、あるいは年間を通しての研修会やサマーキャンペーン、クリスマスキャンペーンなどのイベントを行っています。さまざまな大学生が集まるのでたくさん友達もできます。8月には九州統一イベントがあり、九州全県で献血イベントを行います。献血者が減少しているのでぜひ一緒に活動してみませんか。



赤十字主催のキャンペーン



大分トリニータの試合での啓発活動

平成24年度国民体育大会九州ブロック代表

別府大学短期大学部
初等教育科1年 佐藤 美紀

本年度(2012年度)6月、本学の短期大学部初等教育科1年の佐藤美紀さんが、第67回(2012年度/ぎふ清流国体)・68回(2013年度/スポーツ祭東京2013)国民体育大会に向けて、ボウリング部門の大分県の強化指定選手に選抜されました。佐藤さんは本年度(2012年度)から来年度(2013年度)にかけて18回の強化練習会に参加し、国体の選手選考に備え頑張っています。佐藤さんはボウリングとの出会いや今後の抱負について次のように語っています。

「私がボウリング競技を始めたのは高校に入学してからでした。きっかけは、友達に誘われ体験入部してみたらとても楽しく、続けていきたいなと思ったからです。初めて大会に出場したのは高校1年生の夏でした。周りは小学校やもっと小さい頃から始めた人たちばかりで、自分とのレベルの違いを思い知らされました。そのときは、いつか自分もこのレベルで勝負ができる、そして勝てるようになりたいと思いました。私がボウリングを続けてこれた理由は、年齢など関係なくみんな仲良く暖かい雰囲気、そしてなにより競技自体がとても楽しいからです。大学に部はありませんが、今後もボウリングを続けて、まずは九州で入賞できるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。」

佐藤さんの国体での活躍を期待したいと思います。



練習に励む佐藤さん

がんばってます留学生

豊かな国の森づくり大会

2012年11月10日（土）に第12回豊かな国の森づくり大会が、大分県農林水産部の豊かなまちづくり実行委員会の主催で、杵築市山香町において行われました。この大会は、「県民が森林の豊かな恵に感謝し、慈しみの心を持って森林づくり活動に取り組む」ことを目的として、県内の山に植樹を行うというイベントです。このイベントに本学から27名の留学生が参加しました。当日の天気はあいにくの曇り空でしたが、午前中に杵築市山香町の久木野尾ダム湖畔で植樹を行い、午後から山香ふるさとまつりに参加し、地元の料理を食べ地元の人たちとのコミュニケーションを楽しんだようです。ある中国の留学生は、今後ともぜひ植樹等の環境保護活動に参加したいという留学生もいました。



植樹の様子

後藤学園スピーチコンテスト

第10回外国人による日本語スピーチコンテストが、2012年10月19日（金）に学校法人後藤学園で開催されました。本大会に、県内から12名の留学生が選ばれ、本学からは国際言語・文化学科2年の王 翔坤（オウ・ショウコン）さんと、地域総合科学科2年の任 怡華（ニン・イカ）さんが出場しました。王さんは「命を大切にする」というタイトルで、最近身近で起こった友人の死から生の大切さについてスピーチをし、任さんは「魅力的な人になりたい」というタイトルで、日本の美容院のサービスやテクニックのレベルの高さについて驚いたことなど自分がどのような人になりたいかをスピーチしました。2名とも本番前から大学の講義室でスピーチの練習をし、王さんは優良賞、任さんは毎日新聞賞をそれぞれ受賞しました。



優良賞の王さん



毎日新聞賞の任さん

「国際弁論大会」で各国の留学生が弁論

2012年11月3日、石垣祭で国際ユネスコ協会と国際交流会主催の「国際弁論大会」が行われました。留学生5名の発表内容は、津波、宗教心、アルバイト、日本語、留学生活と多彩でした。出場者は、地域総合科学科1年の龔臣（キョウ・ジン／中国）さん、文学部短期留学生の候佳君（コウ・カクン／台湾）さん、文学部大学院のチャンタラチャムノング・セックサン（タイ）さん、地域総合科学科1年のディルシャン・ピーリス（スリランカ）さん、短期大学部短期留学生の黄慧珍（ファン・ヘジン／韓国）さん。スリランカでの津波体験を話したディルシャンさんの感想は、以下の通りです。「優勝できて、とても嬉しく思っています。石垣祭の国際弁論大会に参加したときは、"自分が経験したこと皆に知らせたい"という気持ちだけでしたが、自分の言葉が優勝までのパワーがあったことを誇りに思います。これからも私の夢を叶えるために頑張っていきたいと思います。」



ディルシャンさん



国際弁論大会の参加者

おおいた日中友好文化祭

2012年12月9日（日）に大分市ガレリア竹町ドーム広場において、日中国交正常化40周年を祝う祭典として、おおいた日中友好文化祭が開催されました。この文化祭は、大分県日中友好協会、大分県華僑総会が主催して、大分県内の6大学の留学生の応援、大分市の地域友好団体、小中学生クラブ、太極拳団体が参加したイベントで、盛大に行われました。また、中国駐福岡領事館総領事や村山元総理大臣、大分市副市長等が来賓として招かれ、会場の皆さんと一緒に各団体が行うパフォーマンスを楽しみました。このパフォーマンスには、本学から陳玉（国際言語・文化学科4年）が孔雀舞、王一妃（地域総合科学科1年）がヒップホップダンスをそれぞれ披露し、場を盛り上げました。皆さんの素晴らしい演出と各界の温かい応援のおかげで、2時間半ぐらゐの文化祭の会場内は、何度も盛り上がっていました。



陳玉さん



左が王一妃さん

学園を支えていただいた方々

長年にわたり大学・短大を支え、2012年度をもって本学をご退任される先生方の足跡を紹介させていただきます。皆さん、大変お世話になりました。(文中の①は在職年数、②は専門分野、授業科目、本学でやりたかったこと等、③はご退任に当たっての言葉です)

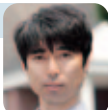
西村 明 先生(前学長、国際経営学部 国際経営学科)

①7年間 ②専門領域:管理会計学、授業科目:国際会計、原価計算、工業簿記論等、やり残したこと:国際経営学部の大学院の設置 ③任期途中で辞任し、ご迷惑をかけましたが、学長として4年間教職員のご協力のもと気持ちよく仕事をさせていただきました。とりわけ国際経営学部の設置とアジア太平洋管理会計学会の国際会議開催に際しては、職員の献身、思いやり、優しさに支えられ老体ながら務めを果たすことができました。また、講義では文学部学生の主体的な受講態度には敬服しましたが、このよき伝統が国際経営学部の学生にもしっかりと根付くことを願っています。この素晴らしい雰囲気を活かし、別府大学がさらに発展することを祈っています。最後に、教職員の皆様に心よりお礼申し上げます。



三浦 勝良 先生(短期大学部 地域総合科学科)

①5年 ②情報科学、電子工学、通信ネットワーク。海流や潮力を利用した発電、蓄電、蓄エネルギーにも興味を持ち研究 ③技術や科学を学生に教えることも大事ですが、学生一人ひとりと向き合い、もっと根底にあるもの、なぜ学ぶのか、何を目標にして生きて行くのか、そんなことを学生と共に真剣に考えた5年間でした。学生が抱える問題は、私達全員が抱える問題であり、それが解決するとき、私たちも幸せになれる。本学で学んだことを心に、精一杯努力を続けていきます。本当にありがとうございました。



佐藤 允昭 先生(前図書館長、司書課程)

①47年間 ②専門領域:図書館情報学 授業科目:生涯学習概論、図書館概論、図書館サービス概論、情報サービス演習、情報資源組織演習等 やり残したこと:司書資格を生かせる就職先をもう少し広げてあげたかった。③大学事務局庶務課、附属高校社会科教員、法人事務局管理課、そして附属図書館勤務を経て文学部講師となり今日に及ぶ。各部署で多くの先輩、同僚に助けられた。深甚なる感謝を捧げたい。



山村 靖彦 先生(短期大学部 初等教育科)

①4年間 ②社会福祉学。社会福祉の立場から、学生に対しては「物事の背景を察知できる」ことの重要性を強調してきました。また、短期大学部入試委員の責任者として、とにかく「ミスのない入試」を心がけてきました。③「仕事の本质は忙しいことではなく、どれだけ成果をあげているか」を自分に言い聞かせながら、本学での業務に取り組んできたつもりです。教職員の方々にも大変お世話になりました。皆さんとは、何だか「戦友」のようなつながりであったように思います。学生からも多くのことを学びました。本当にありがとうございました。



佐藤 哲哉 先生(国際経営学部 国際経営学科)

①4年間 ②観光経営、国際観光経営、国際観光マーケティング、上級国際観光経営(英語)。経済の成長部門としての旅行・ホスピタリティー関連企業の経営について講義しました。 ③美しい自然、温暖な気候、美味しい食べ物に恵まれた別府で別府大学国際経営学部の船出に参加できたことは幸運でした。大学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、地域(企業・NPO、行政、市民)にさらに密着することが学部の発展の基礎であると信じます。学部の今後の発展を祈念します。



安藤 博昭 さん(大学事務局)

①35年5ヶ月 ②学生課でスタートし、就職指導室、法人総務課、放送大学分学習センター、教務事務局と主に教務部門を担当しました。周囲の方々のご理解とご協力をいただき、のびのびと仕事をさせていただきました。それぞれの職場で印象に残ることはたくさんあります。中でも大分学習センターの開設に関わったことが最も印象的で、その後の業務の糧になりました。③学生時代も含め約40年という大変長い間、お世話になりました。大学は学部が3つになり、短大もさらに充実しました。県内で別府大学の存在は大変大きなものがあります。厳しい社会情勢ではありますが、地域の期待に応えて、ますますのご発展を祈念します。



平尾 良光 先生(文学部 史学・文化財学科)

①10年 ②専門分野:文化財科学、保存科学 授業科目:文化財科学概論、文化財科学講義など 本学でやりたかったこと:文化財という実物材料をたくさん集めて、学生に見ていただきたかった。 ③こんな楽しい10年間は別府大学でなければ得られなかったと感謝しております。研究面で学生と一緒に、もっと世界へ出て、世界史の中の日本を勉強してみたかったと思っています。



小畑 光朗 さん(入試広報事務局)

①30年 ②中途採用から30年、教務課2年、学生課1年、入試広報課27年と過ごして参りました。この間、多くの皆様に支えられ、仕事に没頭し、自分なりに役割を果たしたのではないかと自負しています。健康であることこそ、健全な精神を醸し出すことをモットーに、自省しながら日々努力し、大学の発展に寄与できたものと考えています。伝統ある別府大学のさらなる躍進をお祈り致します。 ③人生万事8勝7敗であれば、生きていく上での転機が合うのではないかと考えています。もし、人生勝負する時があれば、次の格言を残したい。身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ我が身すべてを投げ出す覚悟があれば(無くなりければ)、そこに遙かなる道が豁然と開けることでしょう。



渡辺 文雄 先生(文学部 史学・文化財学科)

①4年 ②専門は日本美術史、仏教美術史。授業では、美術工芸論、日本文化史論、文化遺産学などを担当。また、博物館勤務の経験を生かして、博物館経営論、博物館教育論なども。 ③短期間の在任でしたが、本学の充実した環境の中で、かねてより関心をもっており美術作品や文化財、文化遺産について、それらを生み出した原動力としての作家や作者のイメージの構造や痕跡の探究ができたような気がします。学生の皆さんとも、演習や実習を通して、人間の創造力(想像力)のすばらしさについて、多少なりとも語り合えたのではないかと思います。



山崎 智子 さん(附属図書館)

①39年 ②別府キャンパスでは、ほとんどの部署で勤務させていただきました。(看護専門学校、図書館、附属高校、教務課、総務課、図書館)窓口業務が多かったので素直で真面目な学生、生徒との出会いがいちいち楽しく有意義でした。 ③教職員の皆様にはいつも温かくいろいろな場面で支えていただきました。この場所をお借りして厚く御礼申し上げます。4月からは、別府大学のホームページを訪問することを楽しみに、母校の発展と皆様のご活躍を心からお祈りいたしております。本当に長い間ありがとうございました。



二宮 孝富 先生(文学部 人間関係学科)

①2年 ②法律特に民法が専門。法律学、法学(日本国憲法)、行政法、現代社会と福祉、権利擁護と成年後見制度などの科目を担当。 ③わずか2年でしたが、若い学生の皆さんと接する機会がもてたことは幸せでした。法律関係の学部・学科のないところですが、皆さんが法律というものに関心をもってくれたことに感謝します。いま、日本は大きな転換期にあり、憲法問題が重要な局面を迎えていると思いますが、歴史をきちんと学んで、これからの国や社会がどうあるべきかをよく考えていただきたいと思います。



矢野 義記 さん(大学事務局 発酵食品学科 実験助手)

①5年 ②教務課出向食物栄養学科実験実習助手として生化学実験・基礎栄養学実験・食品衛生学実験・調理実習などに加え、発酵食品学科の事務所に尽力。 ③助手としての5年間は、学生をはじめ多くの教員、職員の方々に大変お世話になりました。辛いことや悩んだこともありましたが、楽しい時間の方が多く、5年前に比べてより成長できたと感じています。特に、辛い時ほど学生の声に元気をもらいました。別府大学で多くの人に支えられたことを大変幸せに思います。本当にありがとうございました。



賀来 翼 先生(短期大学部 初等教育科)

①附属高校(現・明豊)で9年間・初等教育科で37年間 ②保健体育:学生には実技を通して、スポーツや運動の楽しさを教えたかった。また実技でも学生には負けたくない気持ちで68才まで過して来ました。教員生活46年間、楽しい授業をさせていただきました。感謝! ③課外活動では剣道部の顧問として36年間通って来ました。去る、2月10日(日)剣道部OB・OGが私の退職記念祝賀会を盛大に行なってくれました。剣道部の御活躍を祈っています。



小野 目依 さん(附属図書館)

①4年間 ②附属図書館での司書業務 ③図書館での4年間は短くも、貴重でかけがえない経験となりました。大学生活の拠点となる図書館で、学生の皆さんや先生方に、どのように有意義に過ごしていただけるかを課題に、試行錯誤の繰り返しでした。参加型の企画やイベントを開催したり、図書館ボランティアの学生と利用向上について話し合ったりと、充実の毎日だったと思います。また職場環境にも恵まれ、多くの方にご指導、ご協力をいただいたことを心から感謝いたします。短い期間ではありましたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



江良 愛子 先生(前学長補佐、短期大学部 保育科)

①9年間 ②幼児教育。保育科1期生からかわり、特に、保育内容・保育相談支援・教育実習指導などの授業を通しての保育者養成、幼児教育を通して地域との連携に力を入れました。学生達には、幼児が試行錯誤しながら主体的に考えていくプロセスを大事にすること、できればや結果のみで評価してはならないこと、内面理解と受容的かわり合いの大切さなどを語ってきました。 ③情熱と愛情に溢れた保育者養成を期待します。47年間にわたる教員生活の最後を、保育者になるという夢を抱いた学生達と過ごせたことに感謝しています。



榎 未央 さん(大学事務局 食物栄養学科 実験助手)

①2年間 ②助手の仕事は、慣れるまで非常に時間がかかりましたが、同じ助手の先生、そして多くの教職員の皆様方に支えて頂いた2年間でした。ここに来て、いろいろな授業に入り、多くの経験をさせて頂き、成長することができました。恵まれた環境で、お仕事をさせて頂いたこと、本当に感謝しています。 ③2年という短い間でしたが、多くの学生たちと出会い、私自身も共に成長させて頂きました。たくさんの方々と出会いに感謝しています。本当にありがとうございました。



辛島 光義 先生(短期大学部 初等教育科)

①9年間 ②大分県内外からの優秀な学生に恵まれて、吹奏楽団の活動が軌道に乗り、充実した毎日で、あっという間の9年間でした。 ③楽器を演奏すると言う事は、自分の考え方や人生の夢や哲学を楽器に託して語る事です。発する音の美しさや、その音が聞く人を癒すか、さらに感動・感銘を与えるかを想像し、工夫を加えた時、初めて音から音楽へと歩み始めます。発する前に考える事が全てです。



尾上 ひとみ さん(大学事務局 食物栄養学科 実験助手)

①2年間 ②調理学実験、給食経営管理実習、食品学実験、臨床介護栄養実習など。 ③学生の皆さんからいつも元気を貰っていました。今後も目標を持って人々の健康維持増進に貢献できる管理栄養士を目指して頑張って勉強して下さい。お世話になりました先生方、職員の皆様方に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



後輩への言葉



馬場 晶平さん

(文化財学科専攻 (前期課程) 神崎高校出身(佐賀県))

小学生から考古学関係の仕事に携わりたいと考え、大学・大学院の6年間、考古学を学んできました。学部生の頃は勉強、アルバイトなどで忙しくあったという間の4年間でした。

別府大学では、やる気さえあれば、先生方が全力でサポートしてください。さらに大学内だけでなく、行政の現場で実践的な調査方法や社会勉強をすることもできます。そのチャンスを活かすかどうかは皆さん次第です。面倒だと思わず1歩踏み出し、欲張りなくらいにチャンスをものにしてください。その経験が今後の人生の武器になると思います。



丸小野 英文さん

(食物栄養学科専攻 (修士課程) 福岡県立高校出身(福岡県))

私は高校時代も食品系だったこともあり、食品やバイオに興味をもっていました。そこで別府大学の発酵食品学科(当時食物バイオ学科)を高校の先生に紹介され面白そうと思い入学しました。大学の4年間と大学院の2年間であわせて6年間のうち、やはり大学院2年間の印象が深いです。大分大学の工学部や医学部との最先端分野の共同研究を行い、研究に熱中した2年間で非常に充実していました。一生の思い出になると思います。後輩の皆さん、大学でなんでもいいので、熱中するものを見つけて、有意義な大学生活を送って下さい。



伊東 希望さん

(国際言語・文化学科 別府青山高校出身)

私の別府大学での思い出を一言で表すならまさに「マンガ」です。私は幼い頃からマンガを読むことや絵を描くことが好きで、せっかくならマンガを描いてみたい!!と思い、マンガの描き方を学べる専門コースのあったこの大学に入学しました。大学で出会った先生や友人に支えられていい刺激をもらい、私も漫画家を目指してみようと思いました。卒業を控えた今でも、私は他の人たちに比べたらまだまだ未熟者だと思います。私はこの先も漫画家を目指して努力していくつもりです。



北原 美希さん

(史学・文化財学科 福岡高校出身(福岡県))

私が大学生活で思ったことは、4年間は短くあっという間に過ぎてしまうということです。しかしその一日で思い出すと、長くて貴重な時間であったと思います。一日の中には自分の時間が多くあり、自分のしたいことをするには十分な時間があります。その時間を無駄にするのはもったい無いと思います。だから私は皆さんに何かしらの目標を立てて、それを達成するために一日を有意義に過ごして大学生活を楽しむことをお勧めします。



財津 成未さん

(人間関係学科 大分西高校出身)

4年間の大学生活はあっという間でした。大学では多くの出会いがあり、人見知りだった私にも、たくさんの友達ができ、毎日充実していました。

学生生活で努力したことは、社会福祉士の国家資格取得に向けた勉強です。2年次と3年次の実習で、「自分にはこの仕事は向いていない」と思い、諦めようと思ったこともありましたが、しかし、共に資格を取ろうとしている仲間や、先生などの支えがあり、最後まで諦めずにやり遂げることが出来ました。

大学生活で学んだことを社会人になってからも活かして、頑張っていきたいと思います。



江藤 美香子さん

(食物栄養学科 安心院高校出身)

大学では管理栄養士国家試験に向けて日々頑張ってきました。私が栄養に興味を持ったのは母が栄養士で、家族の健康を気遣ってくれている姿を幼いころから見てきたからです。大学生活は勉強が大変で本当にあったという間でした。投げ出したくなることもありましたが、一緒に頑張る仲間がいたので乗り越えることができ、4年間を通して、日々の努力の大切さを改めて感じました。努力した分だけ自分自身の力になっていくので、こつこつと取り組むことが大切です。勉強は大変ですが、楽しいこともたくさんあるので在学学生のみならず悔いの残らない充実した大学生活を送れるよう頑張ってください。



原 隆輔さん

(発酵食品学科 別府羽室台高校出身)

大学生活は、人生の夏休みのようなものだと思っています。この時間は何に使っても良いと思いますが、何をするにしても自分に楽しんでもらいたいと思います。というのも、夏休みには宿題がつきもので、大抵の人は「自分は何かしたいのか」という問いに具体的な答えを示さなければなりません。そのときに、楽しかった思い出や共に過ごしてきた人々が、答えを導く際に自分の背中を後押ししてくれるはず。皆さんも出会いを大切に、この貴重な「夏休み」を存分に楽しんでいただければと思います。



渡邊 慧さん

(国際経営学科 竹田高校出身)

4年間大学生活はあっという間です。大学1年生の頃から将来を見据えながら資格やいろんな事に挑戦することをおすすめします。私の場合は日商簿記2級やITパスポートの資格を獲得し、高校の教員免許(商業・情報)取得にも挑戦し、様々な道が開けました。そのおかげで、就活をスムーズに終えることができました。無駄なことは何一つないので、普段したくてもできなかったことを目いっぱいして恋愛もして大学生活をぜひ楽しんでください。



山田 未奈さん

(食物栄養科 佐伯豊南高校出身)

私は、「食のスペシャリストになりたい」という夢を実現させるため食物栄養科に入学し、実践力に富む有能な栄養士を目指して大学生活を送ってきました。講義や実習では、病院や学校に勤務されていた経験豊かな先生方から、先進的な専門知識や技術を学ぶことができました。また、和菓子や中華料理など料理専門家による料理講習会、健康展や台湾研修などの行事も多く体験し、充実した学生生活を通して大きな成長を遂げることができたように思います。就職してからは在学中の経験を生かして、信頼される栄養士になれるよう努めるとともに、管理栄養士を目指してさらに頑張りたいと思います。



三宅 美佐さん

(初等教育科 高田高校出身)

初等教育科では、保育者になるための基礎を授業や実習の中で学びます。また、授業外でも研究会活動で、子ども達と関わる力をつけていきます。私はパネルシアター研究会の活動や公演を通して、子どもが楽しめるように演技力を高めたり、子ども達の様子に応じてかわるここの大切さを学びました。子ども達が喜ぶ姿を見て、自分の苦手な事を克服できた喜びと、また、挑戦してみようとする力が湧いてきました。とても充実した2年間で過ごしました。



太田 朱美さん

(地域総合科学科 佐伯鶴岡高校出身)

私は大学生活の中でたくさんの新しいことに挑戦しました。特に資格取得に力を入れました。全てが良い結果ではありませんでしたが、目標に向けて努力したことは無駄ではなかったと思います。また秋桜祭(学園祭)の実行委員をしたことも大きな経験となりました。クラスが少人数ということもあり、友人と共に励まし合いながら就職活動をしたことも良い思い出です。卒業後も大学時代の思い出を大切に、責任感のある社会人になりたいです。



羽田野 緋さん

(保育科 鶴岡工業高校出身)

保育科での2年間で思い返してみると、とても素晴らしい環境で勉強することができたと思えました。何と云っても、保育科は人数が少ないこともあり、学生と先生方の距離が近く、どんな事でも親身になって話を聞いてくれて、実習や就職の悩みなど支えられることがたくさんありました。また、良き友達にも出会う事もでき、日々の学校生活や実習でも励ましあって、ともに成長することができました。保育科で得たことを糧に、就職しても頑張ります。

外国人留学生奨学金授与式

法人

学校法人別府大学では、学園独自の奨学制度を設け、これまで学業優秀な学生や運動競技に優れた実績をあげている学生を別府大学奨学生に指定し、奨学金の給付を行ってきました。

今年度新たに外国人留学生を対象とした奨学生枠を設け、学業優秀な留学生に奨学金の給付を行うことにしました。

2012年12月13日（木）に本館5階会議室において私費外国人留学生奨学金授与式を執り行いました。授与式では、日高紘一郎理事長から、「他の留学生の模範となり、学習成果の向上に努めてください」と激励の挨拶の後、一人ひとりに奨学金が手渡されました。奨学金の授与を受けて留学生から、これから学びたいことや「卒業後は自分で会社を作りたい」など将来の夢や希望などの抱負が述べられました。

今年度、奨学金の授与を受けた留学生は、文学部2名、国際経営学部4名、短大3名の計9名です。



外国人留学生への奨学金授与式

学園が赤十字の「金色有功章」を受章

法人

学校法人別府大学は2012年11月、日本赤十字社より「金色有功章」を授与されました。この表彰は献血回数100回以上、献血活動継続20年以上の献血団体・献血推薦団体及び献血者に対して行われるもので、日本赤十字社の最高位の表彰です。本学は30年以上にわたり献血活動に協力してきています。特に1991年に「大分県学生献血推進協議会」が発足して以降、本学もこれに協力し、別府キャンパスにおいて6月と12月に学生・教職員が献血を行っています。12月の献血には地元の別府ロータリークラブにもご協力いただいています。

本学では、かつて学生の赤十字活動サークルも存在し、また、現在、文学部史学・文化財学科3年生の本田覚君が「大分県学生献血推進協議会」の副会長を務めていることもあって、一般の学生・教職員の献血についての関心が高く、毎年200名以上の大学関係者が献血を行っています。昨年、12月の献血では115名が献血に協力しました。

本学は、今回の受章を機に、献血をはじめとする赤十字奉仕活動に、学園を挙げて一層の協力を行っていきたいと思います。



金色有功章

「第3回 大分ユーモアまんが大賞」決定

国際言語・文化学科

2010年度に別府大学創立60周年事業として始められたまんが大賞も第3回を迎え、県内はもとより、全国各地の幅広い層から多くの楽しいユーモアまんが作品をお寄せいただきました。（ショートストーリーおよび四コマまんが部門80作品、一コマまんが・まんがイラスト部門174作品、合計254作品）

厳正な審査の結果、大賞には安達正人さん（岡山県）の「RE筆ッシュ」、一コマまんが部門は豊増秀男さん（福岡県）の「TOILET（紙がない）」が選ばれ本学ホームページでWEB公開されると共に、卒業制作展に合わせ大分県立芸術会館で展示会が開催されました。

今回は大分県勢が健闘し、本学学生1名を含む4名が優秀作品に入りました。

また、大学併設の「大分香りの博物館」4階には過去2回の大賞作品を、優秀卒業制作マンガ作品と共に展示してありますので是非お立ち寄りください。



大賞と優秀作品

学生主体の研究室報告会を開催

史学・文化財学科

2012年11月3日と4日、大学祭のさなか、史学・文化財学科を母体とする史学研究会の学生会の報告会がありました。現在、学生会は顧問の教員ごとに13の研究室が活動しており、学生が主体的に調査・研究を行っています。

この報告会はその成果を発表する年に一度の晴れの舞台です。学生は正装をし、プレゼンテーションの要領でプロジェクターを駆使したりしながら、思い思いの方法で報告を行います。2日目(4日)は、オープンキャンパスに参加した高校生を対象にフォローイベントも行いました。このイベントでは、高校生には学生の報告を聞いてもらった後、研究室の学生室長も交えて、学生生活や大学での勉強についてフリートーキングを行いました。高校生からは研究室に参加したいとの感想が聞かれました。



史学研究会報告会の様子

第4回 人間関係学会を開催

人間関係学科

2012年12月15日（土）に、人間関係学科の全学年を対象に、第4回人間関係学会を開催しました。今回は、第9回文化庁 映画賞・文化記録映画部門大賞を受賞した『隣人』の上映と、刀川和也監督と企画の稲塚由美子氏をお招きしトークセッションを行いました。

この映画作品は、児童養護施設で暮らす子どもたちと保育士の何気ない日常の場面を追ったドキュメントでしたが、作品を通して「大切にしてくれる人の傍で暮らすことの意味」を学びました。刀川監督の「親子という関係を越えて、人と人の絆は、人が生きるために必要なことなんです。感じるままに受けとめてください」という言葉が印象的でした。登場する保育士の「この子が生きていくために、この子の軸になりたかった」という言葉から、支援や援助という、根底にある「人を大切に思う心」の声が聞こえました。参加した120名の学生たちにもこの声が届いたのではないのでしょうか。



トークセッションの様子

学部開設10周年記念シンポジウム

食物栄養学科

2012年11月18日（日）、食物栄養科学部開設10周年を記念して、「21世紀の食と健康を考える」をテーマに、シンポジウムを開催しました。

午前中は、卒業生による研究発表・事例報告が行われ、企業で食品開発に取り組んでいる卒業生や管理栄養士として活躍している卒業生、大学院生が研究報告を行いました。午後のシンポジウムでは、県立広島大学の栢下淳教授の基調講演「長寿社会における栄養の意義」をはじめ、県内外でご活躍の先生方によるご講演をいただきました。超高齢化社会における問題点、臨床現場における現状と課題、発酵食品の健康への有用性など、21世紀における食と健康のあり方について多くの示唆に富んだお話がありました。

本学部は今後さらに地域社会で活躍できる食と健康のスペシャリストの育成に取り組んで参ります。



シンポジウムの様子

第19回 日本生物工学会九州支部大分大会を開催

発酵食品学科

2012年12月1日（土）、本学の別府キャンパスにて「第19回日本生物工学会九州支部大分大会」が開催されました。日本生物工学会は、微生物などの様々な細胞とその応用研究についての発表や情報交換を行うことで、生物工学に関する研究の進歩と発展に寄与することを目的とする学会で、今年は本学の食物栄養科学部発酵食品学科の教員が幹事をつとめ実施されました。

大会には150名が参加し、日本生物工学会会長原島俊氏（大阪大学大学院）、生物工学賞を受賞した清水和幸氏（九州工業大学情報工学研究院）による特別講演2題と69テーマの一般講演が行われ、各会場とも活発な討論が展開されました。今後の九州における生物工学の発展が期待されます。



特別講演会の様子

「地域活性化」の学外授業を実施

国際経営学科

国際経営学科では、現場から地場企業の企業経営やマネジメントについて学ぶため、定期的に学外授業を実施しています。2012年11月10日（土）、本学科の中川隆准教授が引率し、1年生10名が大山町農業協同組合の木の花ガルテン（大分県日田市）を訪れました。大山町は大分県の「一村一品運動」の発祥地です。経済不況の中にあっても農産物直売所が各地で設立され、販売額を増加させるなど町の景気は活況を呈しています。今回の研修では、「農業の6次産業化」や「グリーン・ツーリズム」を切り口に、地域を活性化させる農産物直売所の取り組みを学びました。

この他にも、学外授業では県内外の多様な企業を訪問していますが、最近では、日本銀行大分支店や大分航空ターミナル株式会社、由布院などを訪れました。



木の花ガルテン大山本店で講義を受ける様子

「おいしい味のルーツを探す旅」 バスツアーを実施

食物栄養科

2013年1月5日（土）、短期大学部食物栄養科が「おいしい味のルーツを探す旅」バスツアーを実施しました。当日は、20名の参加者と、豊後高田市の「北崎農園」を訪ねて「七草摘み」を楽しみ、本学調理実習室に戻って「七草がゆ」や佐伯米水津の魚、中津の錦雲豚の肉など県産食材を使った料理を作りました。今回のツアーでは本科学生で編成した「WA-SHOKU U女士隊※」がお手伝いし、県産の食材や七草の由来、あるいは本科の教育活動について説明しました。家族で参加した方々からは、「はじめての七草摘みでとても楽しい思い出になった」という声を聞きました。この企画は学生にとってスキルアップと地域との連携を視野に入れた取り組みにもなるので、今後も継続して計画したいと思っています。

※WA-SHOKU U女士隊は、大分県の教育活動「おいしいWA-SHOKU運動」をPRするために、県から委嘱され結成された短大女子学生による宣伝隊です。



北崎農園での七草摘み

恒例！冬のイベント！ ～第3回わくわくフェスティバル&凧あげ大会～

初等教育科

初等教育科では学生が企画、運営する“第3回わくわくフェスティバル”が2012年11月3日（土）に開催されました。今回は約150組の親子の参加があり、会場いっぱいの子どもの歓声があふれ、学生との交流が深まりました。また、会場では、“オレンジリボン（児童虐待防止）キャンペーン”として、参加者にチラシを配布し、協力をお願いしました。

年が明けて2013年1月12日（土）毎年恒例の凧あげ大会が開催され、学生の製作した平面凧や立体凧など約90旗の手作り凧が、夢を乗せて空高く舞い上がりました。学生達が自慢のデザイン力を競い、協力して、作り上げた凧は、個性豊かでステキな凧が多く、凧が上がる度に笑顔と歓喜の音が響いていました。

このような行事は、日頃の授業を通して、仲間との絆、達成感や充実感を味わうこと、豊かな感性を磨いていくことなど、将来、保育者として教育者として貴重な経験となります。



わくわくフェスティバルの様子

凧あげ大会の様子

「はさまきちょくれ祭り」で活躍

地域総合科学科

地域総合科学科は、「地域貢献を通しての実践力アップ」をモットーに、1年間を通してボランティア活動を始めとする様々な地域貢献活動に取り組んでいます。

2012年11月10日（土）・11日（日）の両日、由布市挾間町で行われた第27回「はさまきちょくれ祭り」では、日本人学生と外国人留学生が協力して、会場設営及び模擬店・アトラクション・ステージ等の企画運営に当たりました。特に1日目のステージでは、中国人留学生たちが古代から現代に至る中国衣装をまとった華麗なファッションショーを披露し、ひととき会場の注目を集めました。他にも学生たちは息のあった軽快なダンス等を披露し、今回のきちょくれ祭りを盛り上げるうえで大いに貢献しました。



中国人留学生によるファッションショーの様子

パパ育児応援講座を開催

保育科

2012年12月1日（土）、保育科が大分キャンパスにおいて「パパ育児応援講座・親子遊びを楽しもう!」を開催しました。この講座は、子育て支援の重要性が叫ばれている現在、お父さんにも育児に積極的に参加してもらおうと企画した、保育科の講師陣による地域貢献活動です。

当日は、未就学の子どもさん、お父さんなどのご家族計46名が足を運んでくれました。家の中にある文具の廃材などをおもちゃに変身させる「おもちゃを作って遊ぼう」と、リズムに合わせてお父さんと一緒に子どもが楽しく遊ぶ「体を動かして遊ぼう」という2つの講座を企画しましたが、どちらの会場も、触れ合い遊びを通して大人も子どもも笑顔や笑い声に溢れ、大変盛況でした。また、並行して開催した育児相談会においても参加された方々は満足しておられました。

今後も保育科では、独自の講座として継続開催していきます。



パパ育児応援講座の様子

看護教員は舞台女優

附属看護専

2013年1月18日（金）、学内において看護演習を実施しました。今回の演習は、1月21日から始まる1年生の「基礎看護学実習Ⅱ」に向けて、観察や技術を確かめ、それを記録として残すことが目的です。

今回、演習では本校看護教員が模擬患者を演じました。患者役の教員は、それぞれ与えられた性別・年齢・疾病等の患者になりきり、「腹水観察」ができるようにタオルやラップをお腹に巻いたり、顔にシミやシワを描いて老人の雰囲気を出すなど、リアリティのある抜群の演技力で奮闘していました。教員には知力・体力に加えて「演技力」も必要という演習の一齣でした。

看護師に求められる能力は多種多様です。2年間で看護師国家試験に果敢に挑む本校の学生は、女子も男子も知力・体力、それに演技力にも磨きをかけております。魅力ある看護師めざして、学生たちはひたすら精進の毎日を過ごしています。



看護実習の様子

墨や筆に触れて遊ぼう！ ～5歳児『書のおそび』～

附属幼稚園

別府大学で書道を指導している荒金大琳先生による『書のおそび』に5歳児が参加しました。子どもたちが筆や墨に触れて遊ぶ経験となるように、また、楽しさを感じられるようにと行いました。硯や筆、文鎮などの初めて見る書道の道具を知り、実際に使ってみたり、墨の匂いを感じたりしながら遊ぶ経験となりました。『書のおそび』は1月におこなわれましたが、9月末にも荒金先生に400年昔の「子」の文字を教えてもらう機会があり、子どもたちは実際にその文字のポーズをとって遊んだり、カラフルな絵の具で文字を描いたりして遊びました。その遊んだものを運動会の横断幕としても使用しました。

子どもたちは「墨っち、いい匂いやなあ」「初めてしたけど面白いなあ」ととても興味をもち楽しんでいました。お正月にちなんで、ふじ組は「もち」、あじさい組は「まつ」という言葉にそれぞれ挑戦しました。

大学の先生や学生さんたちとの触れ合いの機会にもなっているので、子どもたちの豊かな経験の一つとして、5歳児の『書のおそび』はこれからも続けていけたらと思います。



書のおそびの様子



子どもたちが書いた「子」の字

思い出に残る充実した修学旅行

明豊中学・高等学校

明豊中学・高等学校では2012年11月に修学旅行を実施しました。中学、高校の二年生が充実した修学旅行を体験しました。

中学校は11月6日から9日までの三泊四日で奈良・京都を中心に日本の歴史と文化に触れ、地域や慣習などについて学ぶとともに集団行動を通じて互いに協力し合う体験を学びました。京都では自主研修の日程の中で歴史的遺産である寺社仏閣を見学し、教室の授業で学んだことがらを実地体験することで深い感動をおぼえた生徒も多くいました。また、北淡震災記念公園では、被災者の体験談を聞いて、防災・減災への意識を高めました。友達と協力して研修をすすめることで、学校生活では味わえないたくさんのお話を学んだようでした。

高等学校は11月13日から17日までの期間で修学旅行を実施しました。今回は、国内旅行のみの実施で、札幌、小樽など北海道の大自然を満喫したり、首都東京での自主研修を、友人たちと協力してさまざまな体験を学習しました。首都圏での自主研修では、さまざまな交通機関を利用して、話題のスポットの見学や自分たちの進路の研究を踏まえた計画をたて、貴重な体験となりました。



奈良東大寺の見学



東京浅草の見学

別府大学同窓会韓国支部の結成

同窓会

2012年11月18日（日）、別府大学同窓会韓国支部が結成されました。海外支部は台湾支部に次いで二つ目です。本学の姉妹校漢陽女子大学の魯徳柱総長（別府大学名誉博士）にご配慮を賜り、同大学を会場に行われました。

まず、金田信子同窓会会長から支部結成に至るまでのお礼の挨拶があり、続いて支部長の尹正煥氏（国文学科卒）、来賓の魯徳柱総長からの発足にエールが送られました。

その後、記念講演に移り、ソウル大学校名誉教授の任孝幸先生から「韓国と九州の文化交流」と題して、史学科の賀川光夫先生との関係を中心に韓国と別府大学との交流について心温まるお話がありました。

懇親会では、慶北大学校の名誉教授で、賀川先生の下で本学に留学経験のある李白圭氏が乾杯の音頭を取られ和やかな雰囲気のうちに会が始まりました。

会に参加した10名の卒業生は、各大学の教員、大韓航空の客室乗務員、商社、出版社など幅広い分野で活躍され、35年という本学の留学生受け入れの長い歴史と本学の国際理解教育の成果が着実に根付いていると感じられました。これからも日韓関係が若い世代によってますます深まっていくよう念じてやみません。



同窓会韓国支部の結成式

新聞で紹介された別府大学・短大の活動

(平成 24 年度後期の主なもの)

新 聞 社	内 容
毎日、今日 9/15	大分香りの博物館 5 周年記念講演会 小泉武夫氏ら「心地よい香り文化大切に」【大分香りの博物館】
大分合同 9/18、今日 9/15	別府大学で恒例の「国際交流ゆかたのタペ」 踊りで留学生と地域住民が交流
西日本 9/17、大分合同 9/18	別府大学短期大学部がトキハで「健康展」 調理法や食のアドバイス【短大食物栄養科】
大分合同 9/20	別府大学短期大学部で公開講座 災害時の水の確保や食糧確保などの対応を学ぶ【短大食物栄養科】
大分合同 9/27	酵素の働きでうま味アップ 目安の量素材の割合 岡本教授「こうじ菌は酵素の宝庫」【発酵食品学科 岡本啓湖教授】
今日 9/28	さかなクン、別府大学に NHKテレビ番組で 短大食物栄養科が研究協力【短大食物栄養科】
西日本 9/29	スポーツの秋、張り切りすぎた後の「疲れ」を明日に残さないためには【食物栄養学科 藤井康弘教授】
農業新聞 10/6、大分合同 10/9	別府大学で交流会 農家のこせがれネットワーク 地元に戻って農業を【夢米棚田チーム（学生サークル）】
大分合同 10/16	「おおいた干ししいたけ料理教室」別府大学短期大学部で シイタケを使った簡単おつまみ 8 品【短大食物栄養科】
大分合同（連載）	10/9「かたぎの実のいぎすーどんぐりを使ったゼリー」、11/13「ムカゴ飯ー食塩だけならあっさり味ー」、12/4「くじゃー正月用に挑戦ー」、1/8「あられー残った餅おいしく変身ー」（連載「親子でつくる郷土料理教室」）【食物栄養学科 西澤千恵子教授】
朝日（連載）	10/10「名月や…月光と恋歌」、11/14「秋が春に優るわけ」、1/16「新年、自然から読み取る」（「つれすれ大分」への連載）【国際言語・文化学科 浅野則子教授】
大分合同 10/15、朝日 10/16	豊後高田市田染荘で稲刈り 中世の衣装で、上手に収穫 別府大学の学生ら 500 人が参加
読売 10/12、朝日 10/25、大分合同 10/27	命の「重み」を感じる本 育つ胎児人形で表現 母親 2 人が出版【看護専門学校 光武智美専任教員】
読売 10/26、毎日 10/26	プロ野球ドラフト 別府大松富選手 巨人育成枠 2 位に【別府大学野球部】
大分合同 11/1、今日 11/2	明豊高校で戦帽式 看護科 2 年の 31 人「高い技術を持った看護師に」【明豊高校】
大分合同 11/6、今日 11/6	アンジェラ・アキさん魅力語る「香りの力で不思議」大分香りの博物館でトークショー【大分香りの博物館】
大分合同 11/6	平尾教授「戦国時代の鉛の流通」テーマに公開授業 地歴公民科の指導力の向上を図る【史学・文化財学科 平尾良光教授】
西日本 11/9、大分合同 11/8	別府大と韓国龍仁大学が協定 金メダリスト輩出の名門 文化財、アニメで日韓交流
今日 11/15	父子で料理体験「お父さんと一緒にランチをつくらう！～オムライスをデコっちゃおう～」【食物栄養学科 浅田憲彦准教授】
読売、大分合同 11/16、今日 11/15	大分香りの博物館 5 周年記念「日本の香り展」 蒸し湯の薬草「石菖」に注目 国内で唯一鉄輪で利用【大分香りの博物館】
大分合同 11/20	クリスマス料理に挑戦 別府大で親子料理教室【食物栄養学科】
大分合同 11/20	大助かり！時短料理 忙しい平日の夕食【短大食物栄養科 古木美香講師】
今日 11/19	食物栄養科学部 10 周年記念シンポジウム開催 21 世紀の食と健康テーマに【食物栄養科学部】
今日 11/21、大分合同 11/27	お菓子の暦あげます 可愛いレシビ集も製作【短大食物栄養科】
今日 11/21	別府大学で書学書道史学会 講師・呉越市が市長を表敬【国際言語・文化学科 荒金信治教授】
大分合同（連載）	11/27「保育士と車の両輪 正しい習慣 歌、ダンスで」12/25「笑顔の園児 収穫感謝祭」、「行事食めじろおし、日本人の心大切に」（連載「食育こにちは 現場の栄養士からアドバイス」）【短大食物栄養科卒業生研究会】
今日 11/29	別府大で全学一斉防災避難訓練 はじめて大学・短大合同で
大分合同 11/30	別府大で大分市長が特別講義「次世代を担う若者へのメッセージ」
大分合同 12/2	香り「飛び出す絵本」視覚と臭覚で食育【短大食物栄養科】
今日 12/13	留学生に奨学金 特に優秀な学生を選んで
大分合同 12/14	公約～私はこう見る～社会保障・福祉 予防機能を重視【人間関係学科 林真帆准教授】
毎日 12/18	5 月に仕込んだ味噌で手づくり団子汁 別府大学と附属幼稚園が一緒に調理【食物栄養学科 浅田憲彦准教授】
大分合同 12/20、今日 12/19	オリジナルの香水を発売 カボスとバラのコラボ【大分香りの博物館】
大分合同夕刊 12/20	春陽会員 松本篤さん個展 色彩を巧みに操り表現した静物や風景の油絵【国際言語・文化学科 松本篤教授】
大分合同 12/21	別府大で学内合同企業説明会 県内企業 78 社、学生 340 人が熱心に参加【キャリア支援センター】
大分合同 12/22	別府大の学生が米づくり報告会 棚田で黒米と餅米を生産 農業の面白さ実感【夢米棚田チーム（学生サークル）】
大分合同 12/26	新聞から発見！地域の課題 別府大の学生が研究中間発表 自らの視点で対策探る【キャリア支援センター 佐藤敬子准教授】
大分合同 12/30	百人一首の成り立ちや歴史について聞く【国際言語・文化学科 浅野則子教授】
大分合同 1/1	安心の保障、首長の役割 自治体は家族のような共生組織に【人間関係 篠藤明徳教授】
大分合同 1/6、今日 1/7	別府大短大部の学生が案内「大分味のルーツを探る旅～“七草がゆ”をつくらう～」【短大食物栄養科】
大分合同 1/6	ノロウイルスの縫いぐるみ 感染予防の啓発に 短大「育ドル娘」が作成 キャラ 6 体、お貸しします【短大食物栄養科】
西日本、大分合同 1/9、今日 1/8	別府大短大部でサトイモ料理コンテスト 豊後大野市の名物に 和洋中の 53 品高評【短大食物栄養科】
毎日、大分合同 1/13、今日 1/12	恒例の別府大学新春風揚げ大会 カラフル大空舞う 鶴見岳背に快登【短大初等教育科・保育科】
大分合同 1/13、今日 1/12	守ろう別府の原風景 文化的景観整備等検討委員会を設置 段上教授を会長に【史学・文化財学科 段上達雄教授】
大分合同 1/22	レシビ絵本に食材の香り 別府短大生が出版「親子で楽しんで」【短大食物栄養科】
毎日、西日本、今日 1/22、大分合同 1/27	別府大「ユーモアまんが大賞」決定 全国から応募 143 人 心ほっこり、豊かな個性 HPで公開中【国際言語・文化学科 田代しんたろう教授】
今日 1/24	大分香りの博物館をテーマに絵本を出版 開館 5 周年記念に【大分香りの博物館】
大分合同 1/25、今日 1/24	別府大の学生 地域活性化策を提案 温泉や景観、食を生かそう【キャリア支援センター 佐藤敬子准教授】
大分合同 1/25	消費者大会で講演「賢く食べてすてきに生きる～引き継ごう食文化～」【食物栄養学科 浅田憲彦准教授】
今日 1/25	地震想定し避難訓練 黄色い防災すきをかぶって お釜でご飯を炊きおにぎりも【附属幼稚園】
大分合同 1/26	温泉発電 関心高いが、導入は慎重 維持コストなど不安【国際経営学科 阿部博光准教授】
大分合同 1/28	洋画科岩尾秀樹さんを悼む 戦後大分県美術界の揺籃期から今日まで第一線で活躍
今日 1/26	「花の力で健康に～安全な食生活を次世代へ～ 消費者フォーラムで講演【発酵食品学科 岡本啓湖教授】
大分合同 1/27	段上教授に聞く もうすぐ節分「鬼って何だろう？」 悪役とは限りません【史学・文化財学科 段上達雄教授】
毎日 1/29	温泉の不思議 別府大の研究チーム発見 高温でタンパク質を分解する酵素つくり出す好熱菌【発酵食品学科 高松伸枝准教授】

表紙の挿絵



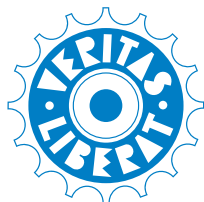
「サムシングブルー」F120 油彩
大田黒 翔代（平成21年度卒業生）

作者コメント

ほんの数ミリの絵具の重なりは、浮かんでは通り過ぎる光のイメージによって、哀愁を帯びながら、どこまでも澄んでゆきます。

編集後記

本年度、別府大学と別府大学短期大学部は中期計画「教育研究発展計画 2012-2016」を策定しました。本号ではこの「中期計画」と本学の「国際理解教育」を特集に組みました。本学が開学以来の積み上げてきた国際交流の伝統と、未来を射程に入れた新しい教育研究の歩みを、本号から読み取っていただければ幸いです。教育CloseUpでは、国際経営学科の「会計・税理士教育」および短大食物栄養科の「食育活動」を取りあげました。本学の特色ある教育をこれからもどしどし紹介して行きます。（友永）



真理はわれらを自由にする

Be-News 2013.Spring (別府大学通信 No.106)

編集 別府大学メディア教育・研究センター 広報部

発行日 平成 25 年 3 月 10 日

印刷 佐伯印刷株式会社
